送辞

校舎の窓から見える寒風山の峰の雪も溶け始め、春の訪れを感じる季節になりました。三年生の皆さんご卒業おめでとうございます。在校生一同心よりお祝い申し上げます。

今皆さんの心の中には、中学校で過ごした日々の様々なことが思い出されていることと思います。本校での一番の思い出は何ですか。厳しい練習に耐え、共に励まし合った部活動ですか。それとも、全校で一致団結できた学校行事でしょうか。思い返せば、皆さんは中学一年生の冬から新型コロナウイルス感染症の流行により、各行事を例年とは違う形で考えなくてはならない状況におかれました。そうした日々の中でも皆さんがリーダーシップを発揮し、大成功へと導いた運動会と東中祭が特に心に強く残っています。

運動会では、皆さんが一、二年生をリードする姿を見て本当に頼もしく思いました。グラウンド内の誘導や、応援練習の説明、出走前の励ましの言葉など、各チームの団長が中心となり指示してくださったことで、チームが本番に向けてひとつになっていきました。
東中祭では、テーマ「To be united」にふさわしい団結力を見せてくださいました。文化会館いっぱいに響きわたった歌声は今でも頭の中によみがえってきます。また、有志発表ではユーモアあふれるパフォーマンスで全校生徒を盛り上げてくださり、笑いと感動に満ちた一日となりました。

部活動でもたくさんの活躍を見せてくださいました。コロナウイルスの影響により大会が中止になるなど、悔しい思いをされたこともあったとは思いますが、三年間の集大成の場である市郡総合体育大会では団体と個人で多数の優勝や全県大会出場を決める成績を収めました。私が所属するラグビー部では全国大会出場を決めたものの、大会直前に中止となったときには、それまで励んできた練習の日々を思うと本当に胸が潰れるようでした。その後、東日本大会に見事、出場を決めたときには、三年生の強い思いが通じ、人一倍の努力が実ったことをうれしく思いました。自分にとって部活動の先輩は特別な存在です。一つ一つの勝利を目指して真剣に練習に取り組む姿から多くのことを学びました。他の部活動も同じに違いありません。同じ目標に向かって先輩方と切磋琢磨した日々は私たちの人生を豊かにしてくれると確信しています。

お別れの時が近づいてきました。先輩方の卒業で心細く思うのは私だけではありません。しかし、いつまでも先輩方に頼ってはいられません。これからは私たちが皆さんからのバトンを受け取り、全校をリードしていきます。

それぞれの新たな道を進む皆さんに、ラグビー日本代表の五郎丸選手の言葉を紹介します。それは「今を変えなければ、未来は変わらない」です。これはラグビーのコーチに「過去は変えられるか」と問われた五郎丸選手が「変えられない」と答えたあと、「未来は」と問われ、「変えられる」と答えた五郎丸選手にコーチが掛けた言葉からきています。コーチは「違う。あなたが変えるべきは今。今を変えないと未来は変わらない」と言ったことから、五郎丸選手は今できることに全力を尽くすようになったそうです。

全力を尽くす姿を私たちの目の前で示してくださった先輩方。男鹿東中学校で培った力や、仲間との思い出を胸に、素晴らしい未来を切り開いていってください。

最後になりますが、三年生の皆さん、今まで本当にありがとうございました。皆さんの更なるご活躍をお祈りして送辞といたします。

令和四年三月十日

在校生代表　加藤　晴琉

答辞

日々暖かくなる毎日に、冬の終わりと春の訪れを感じています。本日この良き日に、私たち 104 名は中学校生活を終え、それぞれの夢に向かって旅立ちます。

新型コロナウイルスの感染拡大が危惧される中、私たち卒業生のために、卒業証書授与式を挙行していただき、心より感謝申し上げます。また、本日私たちの門出を見守ってくださる先生方、保護者の方々、そして在校生の皆さん、本当にありがとうございます。

平成 31 年４月、新しい制服に身を包み、大きな期待と少しの不安を抱きながら、私たちはこの男鹿東中学校に入学しました。入学式では緊張しながら自分の番を待ち、幼い声で返事をしたことを覚えています。何もかもが初めてだった一年。戸惑うこともありました。

先輩や先生方に支えられながら、様々なことを学び、経験することを通して、いつの間にかその戸惑いは消え、学校生活が楽しみなものに変わっていきました。

そして、三年生となり、中学校生活を締めくくる大切な一年は、リーダーシップを発揮しながら、一つ一つの行事に取り組みました。

青く、輝く空の下で行われた運動会。三年生一人一人が後輩たちをまとめる立場となり、その大変さを知りました。応援の内容を自分たちで考えることや、一・二年生に指示を出し、組を盛り上げていくことはなかなかうまくはいかず、何度もくじけそうになりました。しかし、仲間たちと時間をかけて話し合い、練習を重ねることで、「自分たちならきっとできる」という自信が芽生え、運動会当日は、どの色も団結力を発揮し、例年にない盛り上がりを見せました。拳を高く突き上げ、声を上げて一つになった瞬間が、今でもよみがえります。

そして、最後の東中祭。スポットライトが照らすステージ、まだ夏の暑さが残る中で合唱祭が行われました。練習が進むにつれ、まとまりのあるすばらしい歌声になった合唱。本番当日、ホールいっぱいに響きわたった歌声と、心を一つにして共に歌った仲間たちを私は忘れません。また、大いに盛り上がった有志発表。全校生徒がペンライトを掲げて応援している姿に一体感を感じました。楽しいことも苦しいことも、全てを分かち合える仲間がいたからこそ、東中祭を成功させることができたのだと思います。

大きな行事では、特別な思い出ができました。ただ、私たちにとっては何気ない日常も大切な思い出です。たわいのない雑談で笑い合った休み時間。ワクワクしながらおかわりに並んだ給食。授業に真剣に臨み、Ａがどんどん増えた学習評価。教え合いながら猛勉強したテスト。自分一人では、こんなにもたくさんの思い出をつくることはできませんでした。

このように、私たちが楽しく充実した三年間を過ごし、大切な思い出をたくさんつくることができたのは、先生方のおかげです。いつも私たちを支えてくださり、歩む道を見失ったときは、優しく背中を押してくださいました。私たちのわがままにも全力で応えてくださりありがとうございました。お別れすると思うと、とても寂しいです。先生方と過ごした日々を、そして、学んだことを、私たちは決して忘れません。本当にお世話になりました。

在校生の皆さん、私たちに力を与えてくれてありがとうございました。皆さんの存在があったからこそ、私たちは最高学年として自覚をもって頑張ることができました。先輩らしいことはなかなかできなかったかもしれませんが、あなたたちと過ごし、一緒に笑った日々は大切な思い出です。これからは、皆さんが男鹿東中学校をリードしていく番です。失敗を恐れることなく、新しいことに積極的にチャレンジし、東中の新たな歴史と伝統を築いてください。応援しています。

そして、いつもそばで私たちを見守り、育ててくれたお父さん、お母さん、家族の皆さん。私たちのことを一番理解し支えてくれていると分かっていても、素直になれずたくさん心配をかけてしまいました。思い返すと、たくさんの感謝でいっぱいです。忙しい中で、毎日ご飯を作ってくれてありがとう。送り迎えをしてくれてありがとう。洗濯をしてくれてありがとう。見守ってくれてありがとう。今こうしてお父さんお母さんの子どもとして、男鹿東中学校を卒業できることを心から誇りに思います。15 年間本当にありがとうございました。これからも私たちを温かく見守ってください。

そして、三年生のみんな。みんなと過ごした三年間はあっという間で、苦しいことも楽しいことも何もかもが大切な思い出です。この男鹿東中学校で一緒に過ごすことができるのは、今日が最後です。みんなと離れてしまうのはとても悲しく、まだ一緒にいたいという気持ちでいっぱいです。明日からは別々の道を歩き出しますが、私たちはずっと「仲間」です。一人一人の環境が変わっても、心はいつもそばにいます。つらいことや立ち止まってしまうことがあったときは、私たちのことを思い出してください。

私たちの未来にどのような困難や試練が待ち受けているかは分かりません。しかし、私たちはこれまで私たちを支え見守ってくださった多くの方々のために、何より自分自身のために、絶えず、努力していきます。そして、この三年間で培ったあらゆるものを糧とし、夢の実現に向け力強く自分の人生を歩んでいくことを誓います。

最後になりましたが、男鹿東中学校の更なるご発展と、ご多幸をお祈りして、答辞といたします。

令和四年三月十日

卒業生代表　加藤　健太